日本女性学会　2024　　年度少額研究活動支援　報告用紙

提出期限　6 月 30 日（幹事会事情により８月末に延長）　　提出年月日　2025　年　8 月　30 日

名前	児玉谷　レミ
所属・立場	一橋大学大学院社会学研究科ジュニアフェロー
支給を受けた研究活動	自衛隊広報のジェンダー分析
研究活動の実施状況	本研究では、自衛隊の広報活動や、広報における自衛隊表象において、いかに軍事と男性性の結びつきが現れ、それが戦うことと取り結ぶかを考察し、今日の日本における軍事的男性性の様相を明らかにすることを目指した。 助成を受けた 1 年間の間、広報イベントのフィールドワークや自衛隊の公式 YouTube チャンネルにアップロードされる動画、募集ポスターの収集・分析を行った。フィールドワークについては、具体的には自衛隊音楽祭の参加や、体験入隊、その他各地で開催されている自衛隊関連イベントに参加し、イベントの構成や参加者の性別、年齢層などを観察した。 結果として明らかになったのは、自衛隊の広報が何を目的としているかにより、男性性が組織の戦闘的側面と結びつくか、非戦闘的側面と結びつくかが異なることである。すなわち、一般的な認知度を高め、支持を得ることを目的としている場合には、男性自衛官の筋肉質な体をアピールし、ポピュラーカルチャー化された枠組みで「戦いごっこ」のような宣伝が行われていた一方で、人材調達を目的とする募集広報では、「体力がなくても大丈夫」といった「マッチョな男性自衛官」像の相対化や、男性自衛官が積極的に育児参加する様子のアピールなど、脱男性化、ないしは女性化と解釈できるような広報表象が見られた。 ただし、こうした一般広報と募集広報の差異は、必ずしも地方協力本部が作成する広報には妥当せず（自衛隊の広報活動は、各幕僚監部と各地域の基地・駐屯地の広報室や地方協力本部で体制が分かれている）、分析の精緻化が今後の課題となった。 なおこれらの成果の一部は博士論文としてまとめられ、ジェンダー史学会第 21 回大会および戦争社会学研究会第 16 回大会で報告している。 本助成により、より多くのフィールドワークや資料の収集、成果を報告するための機会を得ることが可能となった。重ねてお礼申し上げたい。
幹事会使用欄	